



# 宮崎県拠点だより

事例紹介  
ファイル #20

## 持続可能な農業に向かって!!

スマート  
農業2

### 最新型のロボット田植機を導入し 作業効率化と若い人材の確保を目指す!

西都市の農業生産法人(株)さとう農園では、家族5人に加え社員・パート7人で、自社保有の水田33.8haと地域から依頼を受けた水田約40haの田植えで、今年も慌ただしい春を迎えています。「今年は水が不足気味で、田植えの予定が遅れた」と語る代表の佐藤裕子さん。家族だけでは規模拡大に限界が来ていると感じていた時に、農業改良普及センターの勧めで経営分析を受けると、「すぐに法人化した方が良い」とのアドバイスがあり、2011年に法人化しました。



ロボット田植機(無人)による田植えの様子  
真っ直ぐにスイスイ植えていきます!



ロボット田植機の説明をする  
(株)さとう農園代表の佐藤裕子さん



代かきをする  
後継者の佐藤仁さん

機械に任せられる仕事は機械に任せ、人にしかできない仕事に専念しようと、県内でもいち早く自動運転田植機を導入。昨年は自己資金で最新型のロボット田植機(無人仕様)を導入し、省力化と作業精度の向上に取り組んでいます。

水田には様々な形や高低があり、それに応じて田植機の出入り箇所や進路を考えて操縦するオペレーターの技術が必要です。一方、ロボット田植機は、1年目にほ場データを記憶させることで、苗の植付作業を自動で行うことができるため、翌年の作業負担を大幅に軽減できます。「真っ直ぐに苗を植え付けできることが一番気持ち良い」と佐藤さん。

令和8年産では、これまでのコシヒカリに加え、宮崎県が育成した新しい高温耐性品種「ひなた舞」の作付も行います。

佐藤さんは、人を育てたいとの思いから、今後もスマート農業機械を導入し、若い人が農業に魅力を感じる効率的な営農体制づくりを進めたいと考えています。

# 拠点のうごき



都城工業高等専門学校(3/2)

## ● 若い世代の「みどり戦略学生チャレンジ」

将来を担う若い世代の環境に配慮した取組を称える「第2回みどり戦略学生チャレンジ九州ブロック大会」において、九州農政局長賞及び九州農政局特別賞を受賞された県内各校の皆さんに、菊池地方参事官から賞状を授与し意見交換を行いました。



宮崎大学地域資源創成学部(2/27)

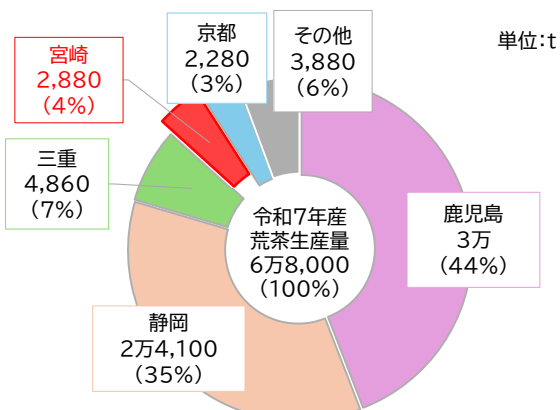


高千穂高等学校(2/26)

## テータで見る宮崎の茶!!

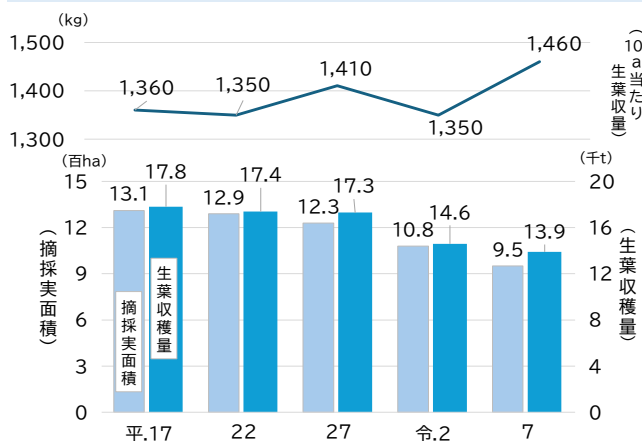
- 令和7年産茶の全国の摘採実面積は2万5,400haで、荒茶生産量は6万8,000tとなりました。そのうち宮崎県は摘採実面積950ha、荒茶生産量2,880tで**全国4位**の産地となっています。
- 宮崎県における令和7年産の生葉収穫量は1万3,900t、10a当たり生葉収量は1,460kgとなりました。  
※荒茶とは、茶葉(生葉)を蒸熱、揉み操作、乾燥等の加工処理を行い製造したもので、仕上げ茶として再製する以前のものをいう。

### 府県別荒茶生産量 (主産県)



注: 割合については、表示単位未滿を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない

### 摘採実面積、10a当たり生葉収量及び生葉収穫量の推移 (宮崎)



資料: 農林水産省「茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量・荒茶生産量」

●本紙の記載内容や農政についてのご質問、ご意見等お気軽にお問い合わせ下さい。

●宮崎県拠点 地方参事官室  
TEL 0985 - 24 - 2365  
〒880-0801 宮崎市老松2丁目3-17

### 編集後記

実家の早期米の田植えが3月21日に終了しました。1か月以上前から種子消毒、種まき、発芽後の土落とし、苗の水かけなど多くの作業を行ってきました。作物作りは「苗半作」と言われ、苗づくりから田植えまで順調に終了したことに安堵していますが、7月下旬の稲刈りまで、水管理、あぜ草刈り、追肥、防除などの作業が待っています。台風や大雨の被害がないことを祈るばかりです。(H)